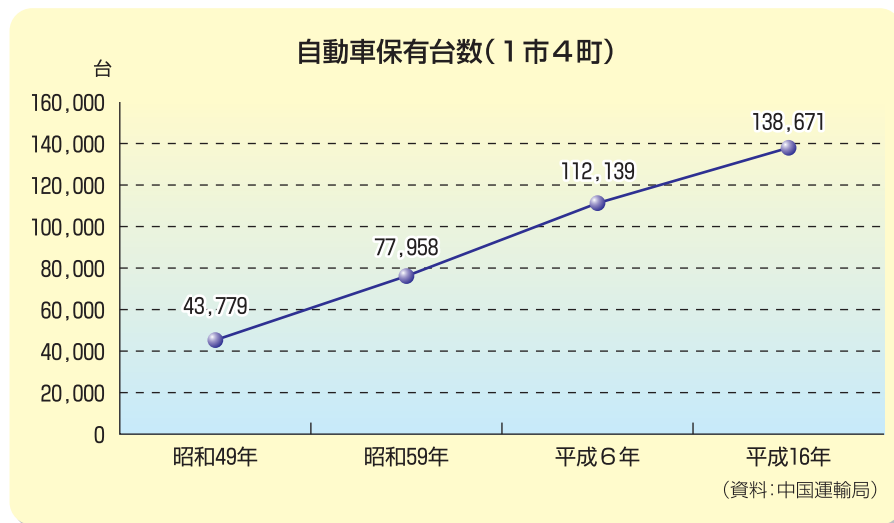


1 現状と課題

(1) 現状 ～無理のあるマイカー依存社会～

① マイカー社会の進行

本市では、生活水準の向上やライフスタイルの多様化と相まって、マイカーを中心とした生活スタイルが進行しています。



マイカー社会の進展は、社会経済の発展や生活水準の向上に大きく貢献してきましたが、交通弱者^{※1}の増加や送迎の負担増、交通渋滞やそれに伴う経済効率の低下、環境負荷の増大、地域経済や地域コミュニティの衰退など様々な社会問題を引き起こしています。

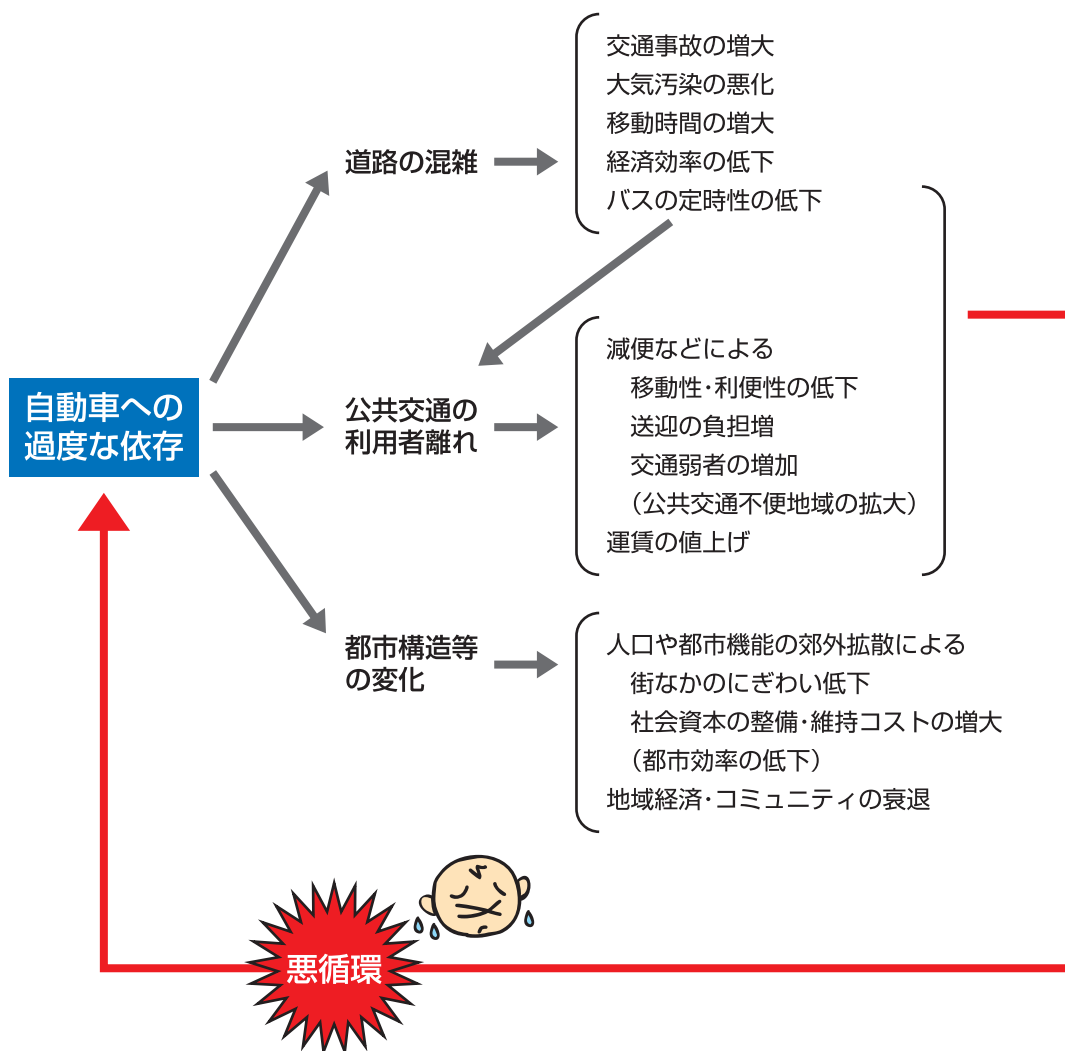
また、人口や都市機能が郊外に拡散し、低密度な市街地が形成され、街なかのにぎわい低下や社会資本の整備・維持コストが増大しています。

さらには、公共交通の運行する沿線人口が減少し、公共交通の維持が困難となった地域が多く見られます。それらの地域では、公共交通の減便や廃止が進み、その結果がさらなるマイカー依存を招くという悪循環を引き起こしています

※1 交通弱者

車を運転できない、もしくは利用できない高齢者等の移動制約者。

■マイカー社会の進行による社会問題の構図

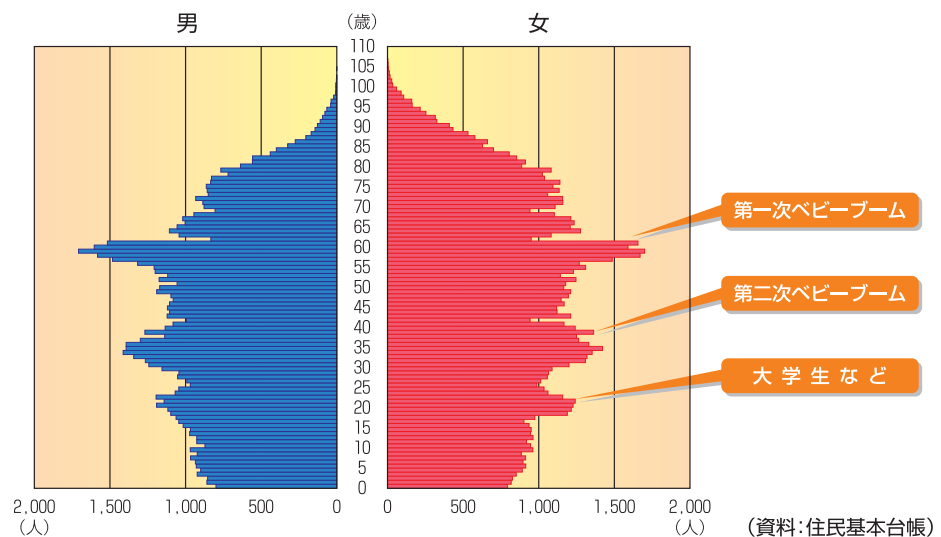


② 高齢化の進行

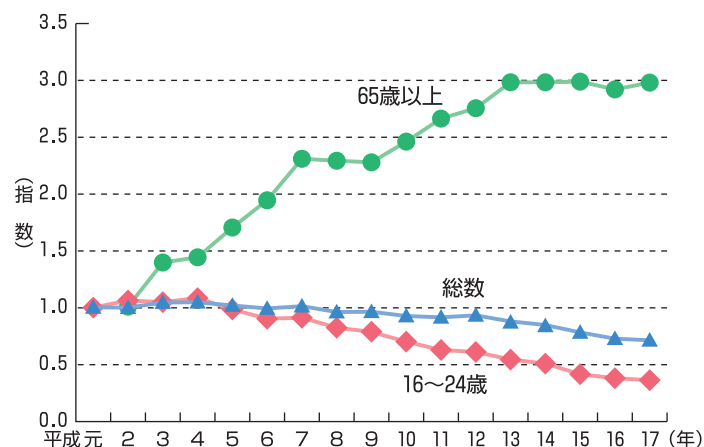
全国と同様、本市でも高齢化が進行していますが、今後は、第一次ベビーブーム世代の高齢化により、平成27年には、およそ4人に1人が65歳以上になることが予想されます。

このことにより、車を運転できない高齢者や送迎する人の負担の増加が予想されますとともに、高齢者ドライバーが引き起こす交通事故の増加が懸念されます。

■人口構造(平成19年6月末現在)



■自動車運転者の年代別死亡事故発生件数の推移

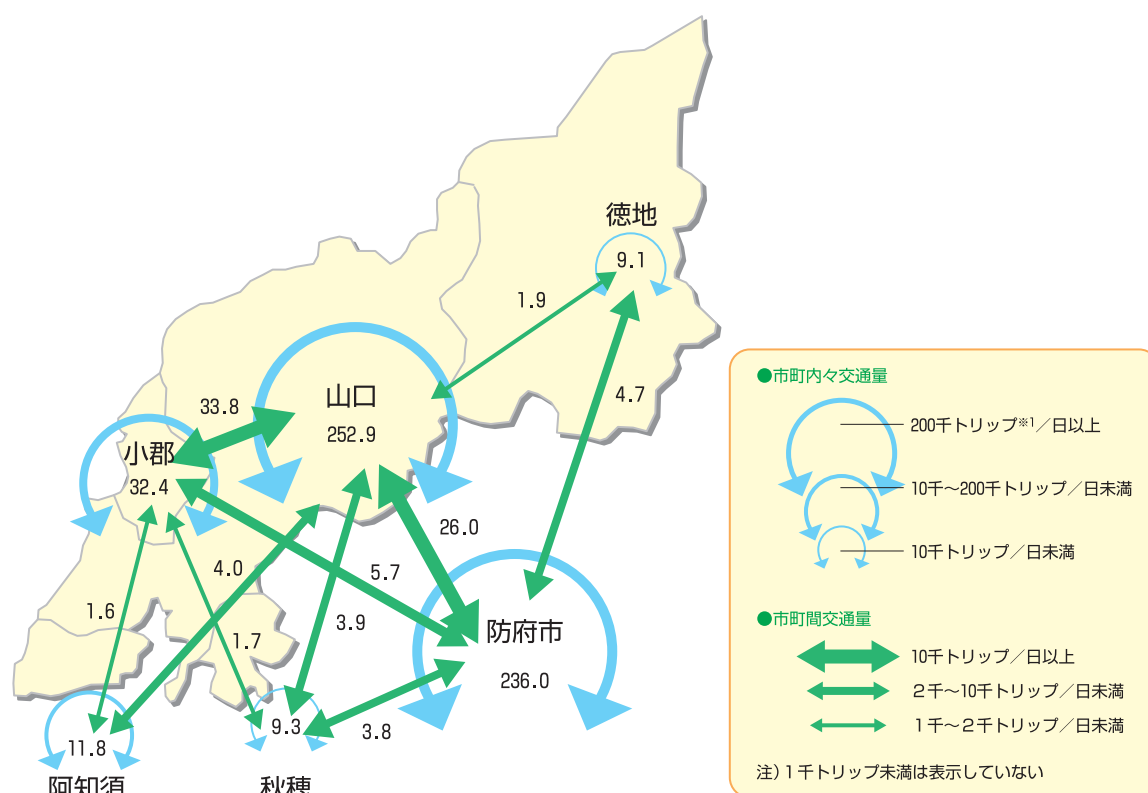


③ 人々の動き

平成15年における山口・防府地域における交通量を見ると、地域内の交通量は、基本的に地域内人口に比例していますが、比較的山口地域内の交通量が多くなっています。

一方、地域間の交通量は、山口～小郡間が1日に約3万4千人、山口～秋穂間と山口～阿知須間が約4千人となっていますが、徳地については防府市との交通量が多く、山口～徳地間については約2千人にとどまっています

■ 地域間の交通量から見た人々の動き



(資料:平成15年度山口防府都市圏パーソントリップ調査)

※1 トリップ
人がある目的を持ってある地点からある地点へ移動する単位。

④ 公共交通の現状

本市は、鉄道・バス等の恵まれた交通環境にあるものの、マイカーへの依存が高まっており、公共交通の利用が低下傾向にあります。

a 鉄道

鉄道は、山陽新幹線、山陽本線、山口線、宇部線が市域を横断しており、新山口駅で全ての路線が結節し、県下の拠点駅としての役割を担っています。

平成18年3月のダイヤ改正により、東京直通の新幹線「のぞみ」の停車本数が上下20本となったことにより、観光やコンベンションの充実と連携した鉄道利用者の増加が期待されます。

市内における乗車人員は、この数年、ほぼ横ばいで推移しており、平成17年度の駅別の乗車人員は、新山口駅が262万人(7,182人／日)、次いで、山口駅が68万人(1,876人／日)となっています。

運行状況を見ると、山口線の山口駅～新山口駅間で1日に上り下り合わせて72本、宇部線で43本となっています。

b バス

本市では、民間事業者2社と宇部市交通局により、路線バスが運行されており、地域間や周辺市町との間を結んでいますが、乗車人員が年々減少しています。

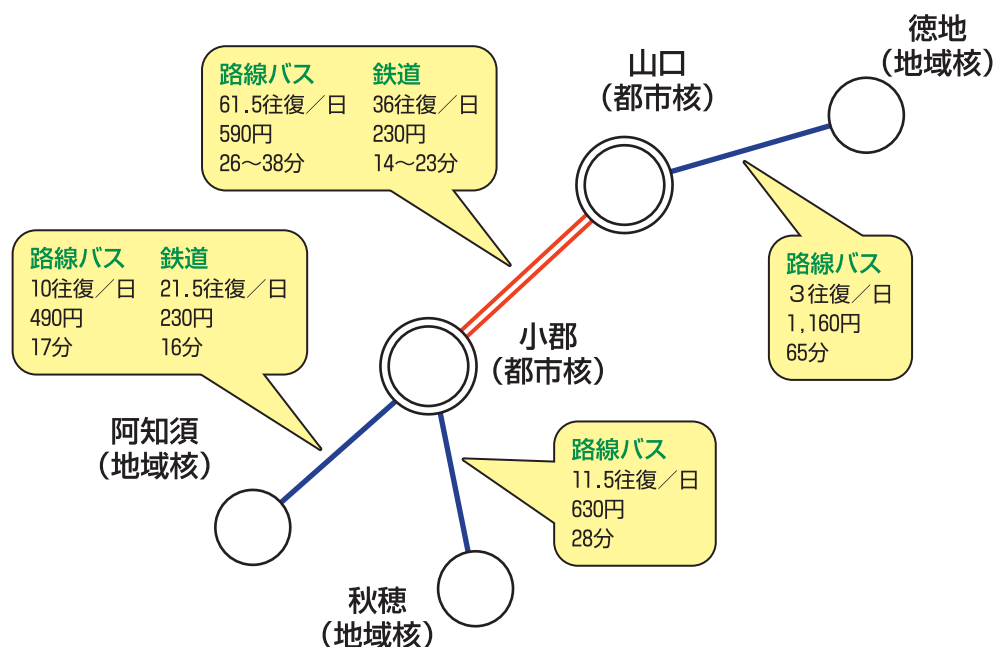
こうしたことから、住民生活に必要なバス路線を維持するため、赤字バス路線に対する公的支援を行っていますが、その補助額が年々増加しています。

また、公共交通の空白地域を解消するため、山口地域では平成13年10月から「コミュニティバス」を、阿知須地域では昭和59年4月から「地域バス」を、徳地地域では平成16年10月から「生活バス」を運行しています



生活バス(徳地地域)

都市核・地域核を結ぶ公共交通の現状(平成19年4月)



市が運行するバスの現状(平成18年度)

	コミュニティバス(山口地域)		地域バス(阿知須地域)		生活バス(徳地地域)	
運行主体	バス事業者(委託運行)		山口市		バス事業者(委託運行)	
運行開始年月	平成13年10月		昭和59年4月		平成16年10月	
使用車両	29人乗りバス(5台) 14人乗りバス(3台)		15人乗りバス(1両)		37人乗りバス(1台) 29人乗りバス(2台) 14人乗りバス(3台)	
1日の運行便数	26便(吉敷・湯田ルート) 26便(大内ルート) 16便(川西ルート)		8便(岡山霊廟~青畑) 1便(小山線)		8ルート(10系統)	
1便当たりの平均乗車人員	9.2人		2.2人		乗車密度1人以下	
年間総乗車人員	221,072人		5,785人		不明	
基本運賃	200円		100円		距離制(柚木、串循環は100円)	
運行経費に占める運賃収入の割合	33.3%		10.8%		9.2%	
(A/B) 年間運賃収入(A)	28,898千円		555千円		4,314千円	
年間運行経費(B)	86,908千円		5,137千円		46,949千円	
運行キロ単価	203円		83円		305円	

c タクシー

平成18年度における市内のタクシー事業者数は、介護タクシー事業者を除き17事業者、車両数は301車両となっています。

乗車人員は、平成16年度が207万1千人、平成17年度が207万4千人、平成18年度が205万2千人となっており、1台当たりの乗車人員は減少しています。

本市は、市域の全域にわたって集落が広がっており、公共交通の不便・空白地域が多く存在しています。こうした地域では公共交通の需要密度が低く、また狭あいな道路も多いことから、機動性の高いタクシー車両等を活用した輸送手法の導入が求められています。



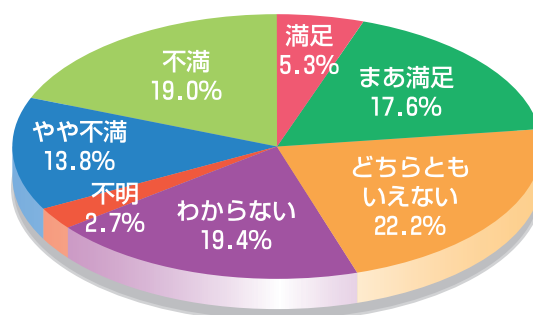
⑤ 公共交通に対する市民意識

■生活交通に関する市民アンケート調査の結果

- ・調査期間：平成18年6月2日～6月30日
- ・配布数：5,032人(15歳以上の市民を無作為抽出)
- ・回答数：2,151人(回収率43.0%)

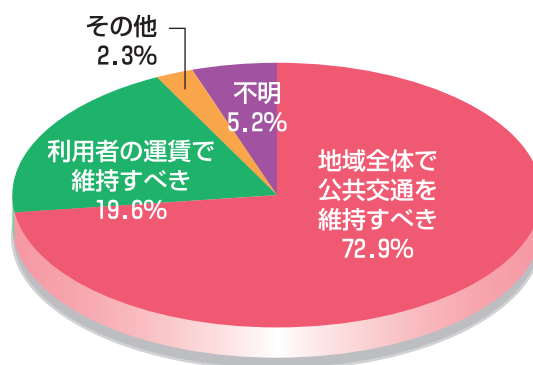
公共交通の便利さ…

3人に1人は公共交通に何らかの不満を持っているという結果になりました。



公共交通の維持・確保…

「地域全体で維持するべきである」とする回答が7割以上を占めました。



市が行っているバスの運行…

「現在のまま継続すべき」と「公共交通の不便な地域へ拡大すべき」が、それぞれ全体の3分の1程度を占めました。

